

第21回 市立病院ボランティア編



▲エルエルさんのマジック実演。私も思いませんが、笑顔で声を掛けてもらえるとほっとしますね。市立病院には、さまざまな形で患者さんやご家族を支えてくださるボランティアの皆さんがいます。

古今東西 ぐんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し 市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

患者さんやご家族を支える

市立病院を訪問し、患者さんやそのご家族のサポートを行うボランティアの方々に、お話を伺いました。

んがいらつしゃいます。クラウン（道化師）に扮し、小児科病棟でユニークなパフォーマンスを披露する「ホスピタル・クラウン」の中村国子さん（クラウン名・エルエル）は「看護師の経験があり、笑いがあることの大切さを感じていました」と話されます。12年前に、東北で初めてこの活動を始めたそう。「付き添いのお母さんが子ども以上に大笑いされることも。数分間だけでも、子どもも付き添いのご家族も、病氣のことを忘れて楽しんでほしい」と中村さん。活動をさらに広め、たくさんの方に笑顔を届けていただけたらうれしいですね。

一人一人に寄り添う

病院内で図書の貸し出しサービスを行う「けやき文庫」の畠山ひかりさんと、入院中の子どもたちに遊びを提供する「スモールエンジェル」の浦山裕佑さんは、学生ボランティアです。「患者さんとのちょっとしたやり取りからヒントを得て、その方に合いそうな本をお薦めします」と畠山さん。浦山さんは、「少しでも季節を感じてもらえたらと、クリスマス会などの季節ごとのイベントも行います」と話されます。患者さんの目線で考えた細やかな気遣いに、皆さんの活動を心待ちにしている方も多いそう。

入院患者さんのお話を傾聴する引地

安心して治療を受けられるように

昭和5年の開院以来、市民の健康を守る役割を担ってきた市立病院。職員だけでは手の届かない部分を、ボランティアの方々の手助けや心配りで支えていただき、患者さんやご家族の気持ちや和らげられていると実感しました。これからも、ボランティアの皆さんとの連携を深め、患者さんに安心して治療を受けていただける環境づくりを進めていきます。

市立病院ボランティアの皆さん

<p>ガイドボランティア</p>  <p>高橋啓治さん</p>	<p>傾聴ボランティア</p>  <p>引地恵一さん</p>
<p>スモールエンジェル</p>  <p>畠山ひかりさん</p>	<p>ホスピタル・クラウン</p>  <p>中村国子さん</p>